
voice

むぎ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

voice

【Nコード】

N9980A

【作者名】

むぎ

【あらすじ】

頭は寝癖、黒縁フレームのメガネ、白いYシャツ、ジーンズと言
ういでたちのこの男、なぜか首には聴診器が・・・果たして何者な
のか。

第1話 出会い

僕のことを嘘つきだと思うならそれでもいい。

私は今、喫茶店の店先でぼーっと、目の前で犬と戯れている男を眺めています。

首には聴診器をかけ、頭は無造作ヘアーと言い張るが、完全な寝癖。白いYシャツに、ジーンズ。そして、顔には黒縁フレームのメガネ。いかにも今流行の「メガネ萌え」といった感じの男。

私がなぜこの男と一緒にいるかという点、全然面識はないのだが、さつき道を聞いたら突然、「ちょっとまっててください」

と言って、犬と戯れ始めた。なんという男だ。まあ、急ぎの用でもないからいいのだけれど。

しかし、よく見てみると戯れていると言うより会話しているようにも見える。しばらく一人と一匹が会話している姿を見ると、男がこっちに来た。

「郵便局なら、駅のすぐ側だそうですね」

ニッコリと微笑みながら、男が言った。なんとも人懐っこい笑顔だった。

「ありがとうございます」

こちらでも自然と笑顔になった。

「こちらの方ではないんですか？」

「ええ、最近引越してきたばかりで、この辺のことは全然分からなくて」

照れくさそうに、私は肩をすくめた。

「実は僕もなんですよ。あなたに道を聞かれたときは正直焦りましたよ」

ケラケラと笑って言った。

え？

道分らないのに、適当に教えたわけ？

私の頭はクエスチョンマークでいっぱいになって、たまらず疑問を口に出してしまった。

「あの・・・郵便局が駅の近くにあるってのは・・・」

あつ、と焦ったような顔で、男は弁解を始めた。

「いや、アレは嘘ではなくてですね」

はあ、と半信半疑な気持ちで相づちを打った。

「犬に聞いたんです」

男はさらっと言った。

私は面食らった。よくもいけしゃあしゃあと。

「嘘だと思っなら行ってみてください」

考えを見透かしたような口調で、男は言った。

そんなことありえるはずないじゃない。

私は郵便局まで歩き出した。

あった。

5分くらい歩くと、右手には大きな駅があり、その隣にごちんまりとした郵便局が建っていた。

私の頭は、またクエスチョンマークでいっぱいになった。

「やっぱりあの犬に聞いたのは正解でしたね」
振り返ると、そこにはさっきの男がいた。

いや、そういう問題ではなくて、何で犬と話ができるんだ？この男。

そんな私をよそに、また話を続けた。

「あの犬は、飼い主がよくあの喫茶店に行くらしくて、この辺のことが詳しくなってしまったそうなんです」

「は、はあ・・・」

「あつ、僕ってば初対面の人に変な話ばかりして・・・すいませ
ん」

男はぼりぼりと頭をかいた。

「聞こえるんです」

「は？」

何が聞こえるのだろう

「彼らの声が」

「彼ら・・・と言つと?」

私が聞くと、男はニツコリと笑つて

「あはは。今度お会いしたときにお話しますよ」
と、はぐらかされた。

今度?

「じゃあ、僕はこの辺で」

男は手を振つて、東京の街へと消えた。

「あの人は、何者だつたんだろう?」
変な人だったなあ。東京つてこんな人ばかりなのかな?
重い足取りのまま、私は郵便局へと入つていった。

次の日も、あの男は今日と同じ場所で、犬と会話をしていました。

第1話 出会い（後書き）

かなり意味不明な文になってしまった；；；

理解していただけの方がいたらうれしいです。

果たして、この男は何者なのか

そしてこの二人の関係は、その後どうなるのか
作者のわたしも楽しみです。

それでは、感想お待ちしています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9980a/>

voice

2010年12月10日01時53分発行